

武家から庶民、あるいは女性礼法への広がり、と礼法の変遷が一望できるように試みた初の集成。

# 近世礼法書集成

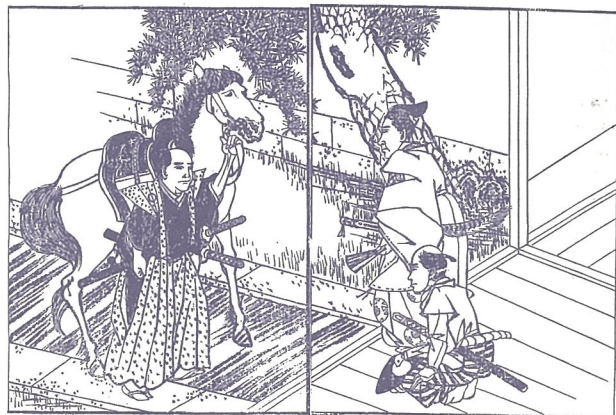
全15巻  
別冊1

小泉 吉永編・解題

クレス出版







## 庶民はいかに武家礼法を受容したか

小泉吉永

但馬国の大庄屋・西村次郎兵衛が安永八年に著した庄屋心得書『親子茶呑咄』に「私は一文不通で小笠原も麦わらも分らないため、この通り精一杯勤め励んできた」というくだりがある。三歳で母、一二歳で父に先立たれた彼は礼法とは全く無縁で、自ら「私には幼年より父がいなかった。行儀作法を教えてくれる者もいなし、習おうという気もなかった」と述べている。

だが本書には、寄合の席上について、こんな心得が記されている。

謙讓の心がないと人との交わりはできないが、心得ておくべきことは、他人の所へ呼ばれた時や寄合事の時に、自分が座るべき席が大抵決まっているということだ。それをとんでもなく末席に座るのを礼と勘違いしてはならない。しかし、たとえ座る席が大体分かっているとしても、その席よりも二つ三つ末席へ座るが良い。すると、相客や上座の者、また相伴や亭主が「こちらへどうぞ」と勧めるであろう。しかし、まずは他の者へ譲り、「どなたもお出でなされ」と言ってみ合わせよ。そして再び勧められ、さらにもう一度勧められたら、三度目には辞退してはならない。

三度勧められたら応じるというのは「三辞三讓」の礼法にかなった心得で、勧める側も、遠慮する側も互いに三度までという儀礼があった。そのルーツは古代中国にあるが、日本でも平安頃から、推挙された官職を形式的に三度辞退する「三讓」が慣例となった。したがって次郎兵衛は、細かな作法はともあれ、接する人々へ細やかな気配りをしながら心の交流をしていた点では実質的に礼法をわきまえていたと言うべきであろう。

江戸時代の小笠原礼法は「お止め流」と呼ばれ、本来、將軍家に限られた礼法で「一子相伝」であったが、小池貞成や水島卜也など小笠原家以外の礼法家によって、いわゆる「小笠原流」が広められた。この亜流とも言うべき「小笠原流」は礼法指南や出版によって広く士庶に普及した。往來物にも小笠原流の記事は頗る多く、庶民子弟にもある程度浸透していたと考えられる。

本集成は、江戸時代の小笠原流関連書五三点を武家礼法・庶民礼法・女性礼法・婚礼に分類・集録し、武家から庶民、あるいは女性礼法への広がりや礼法の変遷が一望できるように試みた初の集成である。近世礼法の総体としての「小笠原流」がどのように形成され一般化したのか、特に、庶民はいかに受容されたかについての研究に役立てただければ幸甚である。

（法政大学講師・往來物研究家）











# 近世礼法書集成 全15巻／別冊1

小泉 吉永 編・解題

A5判／上製函入クロス装／本文中性クリーム紙

揃定価124,000円(税別) ISBN978-4-87733-400-0(セット)

- 第1回配本 第1巻～第10巻 武家礼法、庶民礼法 全10巻 揃定価75,000円(税別)  
平成19年12月末日刊行 ISBN978-4-87733-401-7(セット)
- 第2回配本 第11巻～第15巻 女性礼法、婚礼 全5巻 揃定価45,000円(税別)  
平成20年3月末日刊行 ISBN978-4-87733-402-4(セット)
- 第3回配本 別冊 解題、事項索引 定価4,000円(税別)  
平成20年8月末日刊行 ISBN978-4-87733-403-1

## ● クレス出版好評既刊書 ●

### 近世育児書集成

全10巻／小泉吉永編・解題

江戸時代には数多くの子育て書が登場し、様々な育児論が展開した。従来の方面では平凡社東洋文庫の『子育て書』が最も重宝だったが、原本を正しく理解するには翻刻上の限界もあり、同書に未収録の文献も多数存在することから、今回54点を影印復刻。

A5判／総4,850頁／揃定価95,000円 ISBN4-87733-349-5

### 「子どもと家庭」文献叢書

全12巻／石川松太郎監修 山本敏子・藤枝充子編集協力

明治初年より昭和期の第二次世界大戦終了時までには家庭教育について論じた文献を、子どもと家庭(とくに両親)との人間的な関わりに視点をおき、思想・心理・生活などさまざまな角度より収録。日本の近代社会の子育ての理念・方法・内容の軌跡。

A5判／総6,280頁／揃定価132,000円 ISBN4-87733-042-9

### 複製 日本女性史叢書

全23巻別巻1／上笠一郎・山崎朋子編纂

〈日本女性史研究〉の明治から昭和30年代までの稀観45文献。

明治大正期Ⅰ 全6巻 揃84,000円 Ⅱ 全5巻 揃70,000円

昭和期Ⅰ 全6巻 揃90,000円 Ⅱ 全6巻 揃82,000円

別巻 日本女性史〈総論〉、各巻解説を纏めて再録 定価4,000円

A5判／総16,000頁／揃定価330,000円 978-4-87733-385-0ほか

### 戦後家庭教育文献叢書

全10巻／石川松太郎・山本敏子監修・解説

家族が家庭で子どもに基本的な教育と社会化を行う「家庭教育」は、子どもの人格形成に重要な役割をもち、教育の基本である。

「家庭教育」という枠組みのなかでも、思想哲学、歴史、行政政策、社会、心理、児童・社会福祉にも及んで編集している。

A5判／総4,120頁／揃定価94,000円 ISBN4-87733-018-6

### 家庭文庫

全12巻別冊解説／上笠一郎・山崎朋子編纂

大正の初期に、当時の女子・高等教育のリーダーとして高名だった人たち、下田歌子・嘉悦孝子・吉岡弥生・棚橋絢子・津田梅子・矢島楯子・山脇房子・跡見花蹊・三輪田真佐子などが、〈婦人文庫刊行会〉という会を結成。この会が、江戸時代の女訓書を集成した『婦人文庫』(全12巻)に次いで、その近代版として編んだもの。〈女性思想〉を追究し〈家庭思想〉の展開を跡づけるためには必須の貴重文献。

四六判／総4,540頁／揃定価91,000円 ISBN4-87733-326-6

〈女性原論〉新婦人訓(成瀬仁蔵)、良妻賢母論(宮田脩)

〈家庭原論〉家政講話(嘉悦孝子)、家庭経済(和田垣謙三)

〈家庭生活〉理想の住宅(保岡勝也)、家庭衛生(吉岡弥生)

〈家庭教養〉家庭博物(石川千代松)、新美装法(藤波芙蓉)

〈家庭文化〉家庭の娯楽(松浦政泰)、芸術講話(島村抱月)

〈産育教育〉児童の教養(三田谷啓)、童話の研究(高木敏雄)

### 《日本人、育てのなかのしつけ論》 文献シリーズ

全9巻／石川松太郎・山本敏子・藤枝充子編・解説

「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、明治から昭和末までの18文献を収録。教育学はもとより、心理学・社会学・民俗学・民族学・小児医学など広域におよぶ視点から選抄。

A5判／総4,560頁／揃定価90,000円 ISBN4-87733-327-X

第1巻 日本の子つけ、日本礼法史話

第2巻 婦女心得 躰と育、子供の躰方 一名育児憲法

第3巻 家庭教育 子供のしつけ方、実験 子供の躰け方

第4巻 女工の躰けと教育、女工の躰けは此呼吸から

第5巻 国民学校 躰の修練実践、国民学校 ヨイコドモの躰

第6巻 幼児の家庭教育、子どもの自由としつけ

第7巻 こどもの心理としつけ、幼児の心理としつけ

第8巻 巨視的しつけ法、しつけ

第9巻 言葉の教養 躰の変遷と現代の問題点、しつけ

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋

☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版